

「テレワークの効果的な導入モデルの検討」 ～中小規模の企業に対する導入の検討～

A study of the effective deployment model of the telework.

"Consideration of introduction to the small and medium-sized enterprises."

伊藤国浩 原田研究室 情報セキュリティ大学院大学

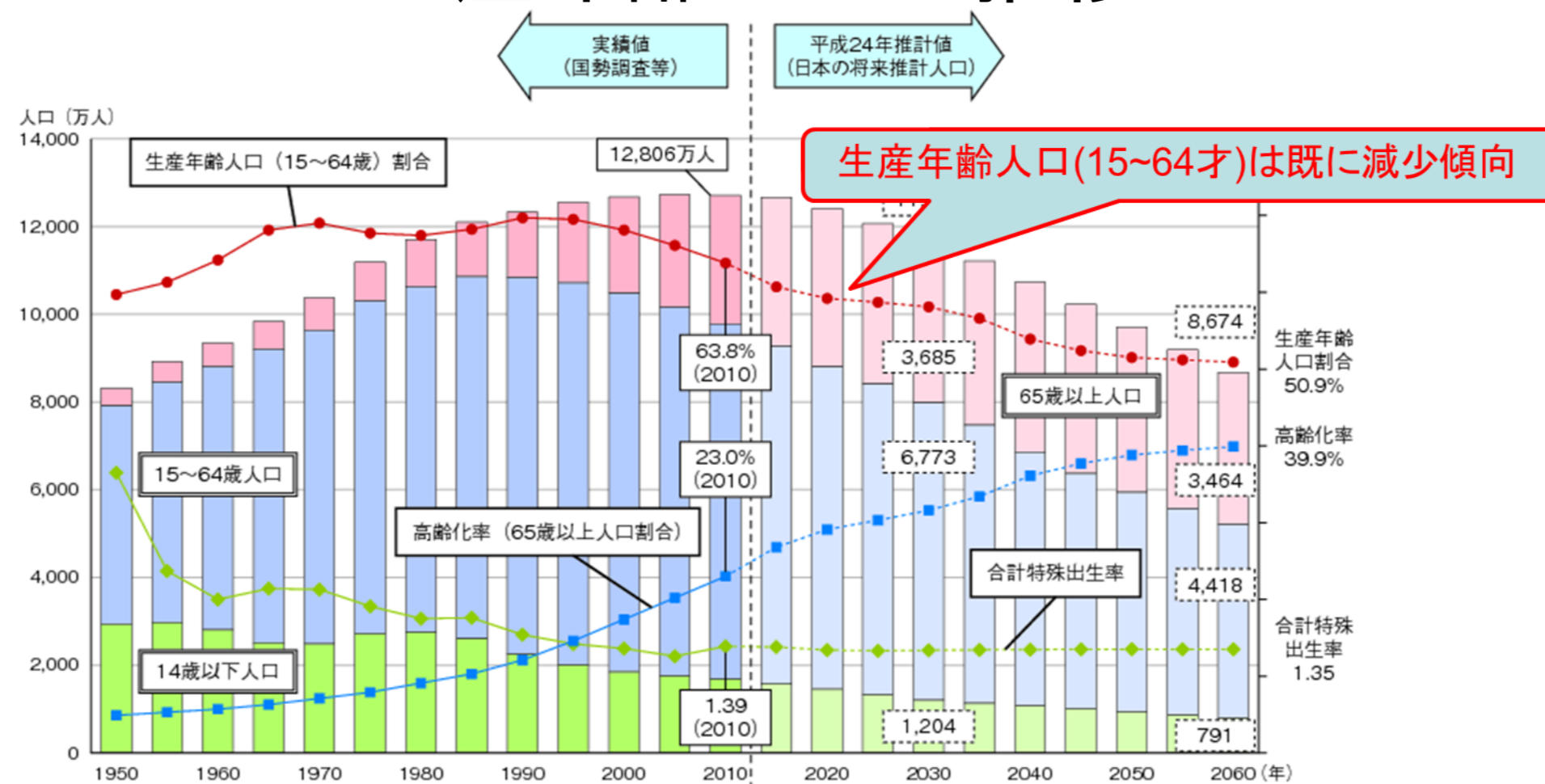
Telework, which has been promoted by the Japanese government, is considered as a promising solution for the issue of decreasing working population due to declining birthrate and aging population. Also, private enterprises introducing telework, which have been learned from the experience of the Great East Japan Earthquake, has increased, because telework is one of BCP measures for the breakdown of the transportation systems and scheduled blackouts. Telework is a good measure, as it enables to work at home as the same as an office during such disaster.

Japanese companies have recognized importance and effectiveness of teleworking from the viewpoint of securing stability of work force and the BCP. However, the remote office has different issues such as lack of communication. Although many studies on telework and remote office have been conducted since 1980s, there are still unresolved problems.

In this paper, in order to increase telework introduction rate of the medium and small-sized enterprises, framework to implement telework has been considered with referring to precedent studies and examples, based on the present situation of social environment and ICT (Information and Communication Technology).

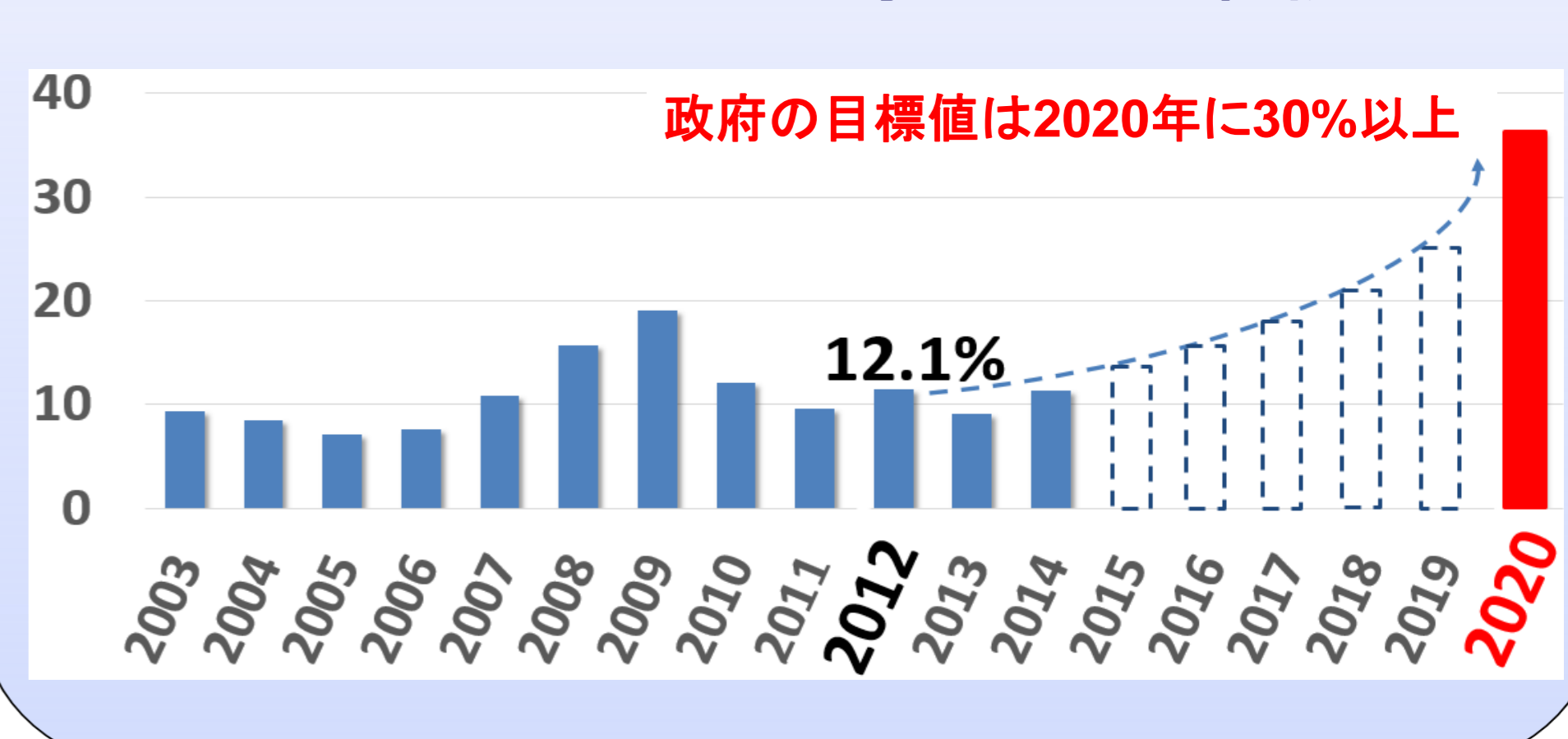
背景

生産年齢人口の推移



(出典)総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)、厚生労働省「人口動態統計」
http://www.cao.go.jp/about/pmf/pmf_7.html

企業のテレワーク導入率の推移



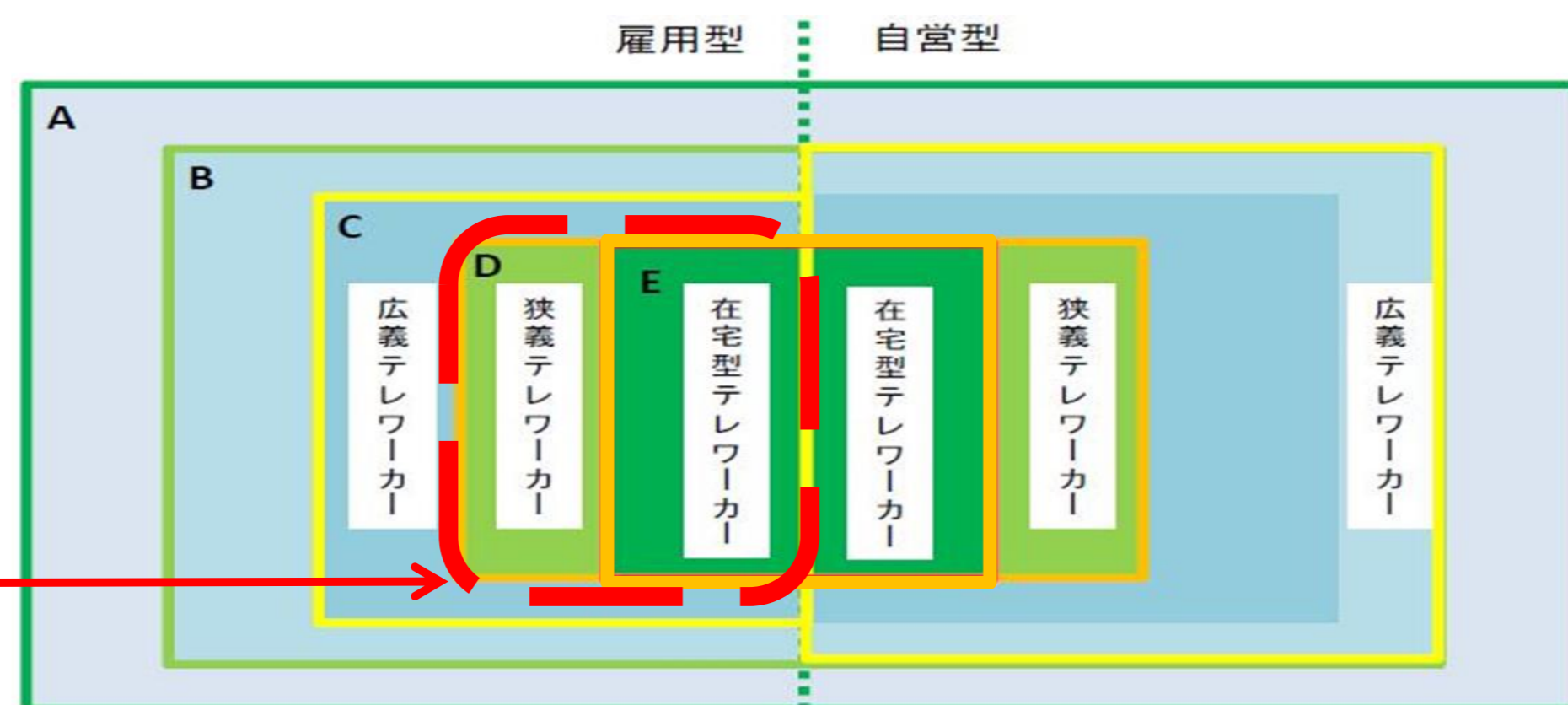
出典:総務省「平成26年度通信利用動向調査(企業編)の概要」を参考に作成
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05b2.html>

背景: 労働人口減少と事業継続

- ・少子化および人口の高齢化などの要因により、労働人口が減少傾向にある。
- ・企業にとっては必要な人員を確保しにくくなっていく。
- ・2022年には、団塊世代が75歳になり、団塊ジュニア世代が介護のため離職するケースも予想される。
- ・世界的な規模でサプライチェーンが拡大し、災害時にも事業継続が求められる。

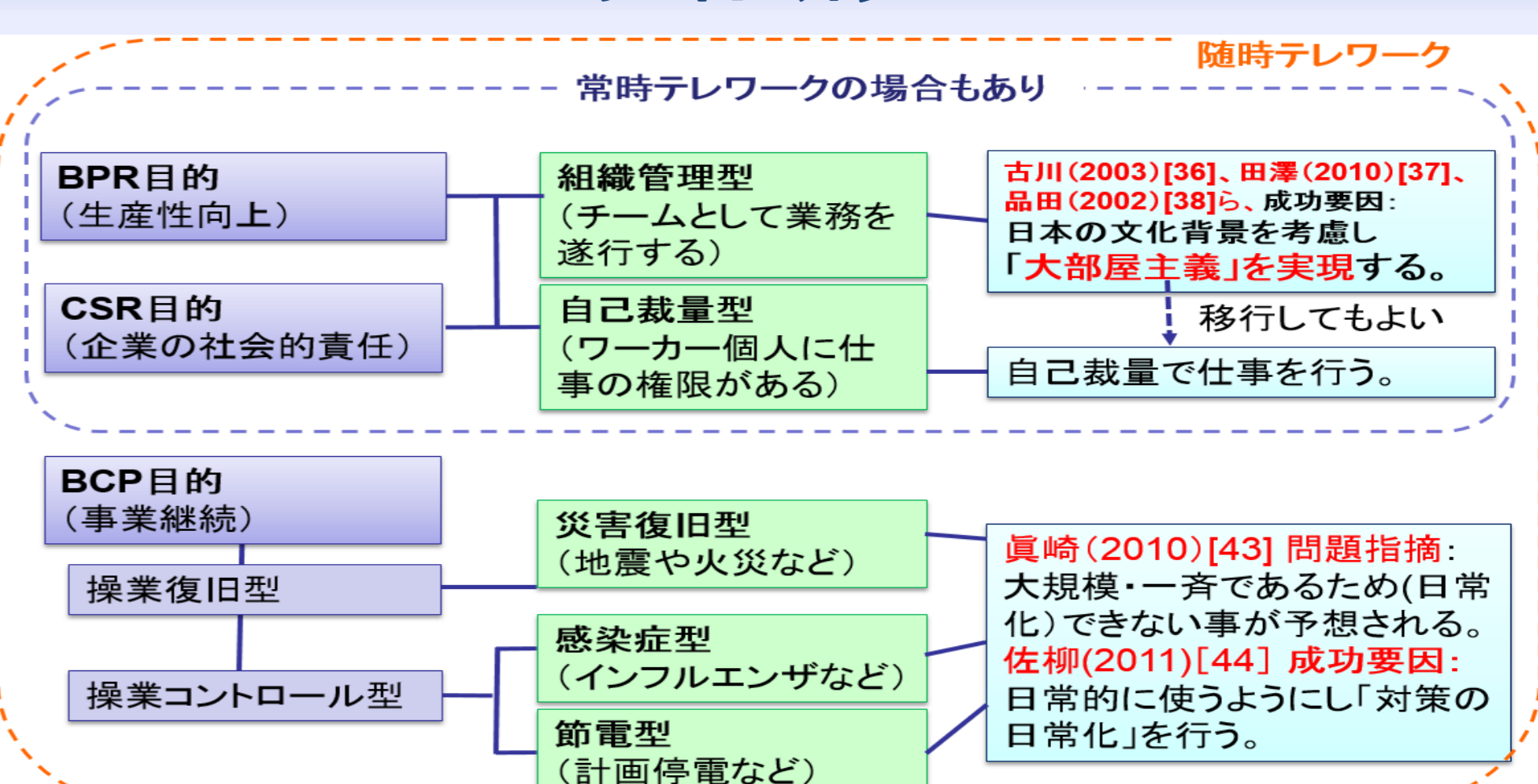
目的と研究対象

分散型オフィスとテレワークの定義



出典:国土交通省 テレワーク人口実態調査

先行研究



研究の目的と研究対象

中小規模の企業

- ・出産や育児、介護などの事情での離職対策
- ・人材確保をしやすくする
- ・一旦テレワークを導入しても続けられない

週8時間以上のテレワーク

- ・「週1日以上終日在宅で就業する雇用型在宅型」
- ・「1週間あたり8時間以上」

在宅勤務、サテライトオフィス勤務

調査

導入事例調査

表 4-8 組織規模(人数)別、クラウド利用状況

| 規模/事例 | 事例A(N) | 事例B(N) | 事例C(N) | 事例D(N) |
|-------|-----------|----------|-----------|-----------|
| ~29 | 60.0%(10) | 83.3%(6) | 80.0%(15) | 54.5%(11) |
| ~99 | 14.3%(7) | - (2) | 57.1%(7) | 25.0%(8) |
| ~299 | 16.7%(6) | 14.3%(3) | 57.1%(7) | 33.3%(12) |
| ~499 | - (2) | 33.3%(1) | 66.7%(3) | - (2) |
| ~999 | - (0) | - (0) | 50.0%(4) | 0.0%(12) |
| 1000~ | - (0) | - (0) | 20.0%(5) | 30.0%(10) |

仮説:「人数が少ない組織ほど、テレワークでクラウドを利用している割合が高い」

導入事例調査

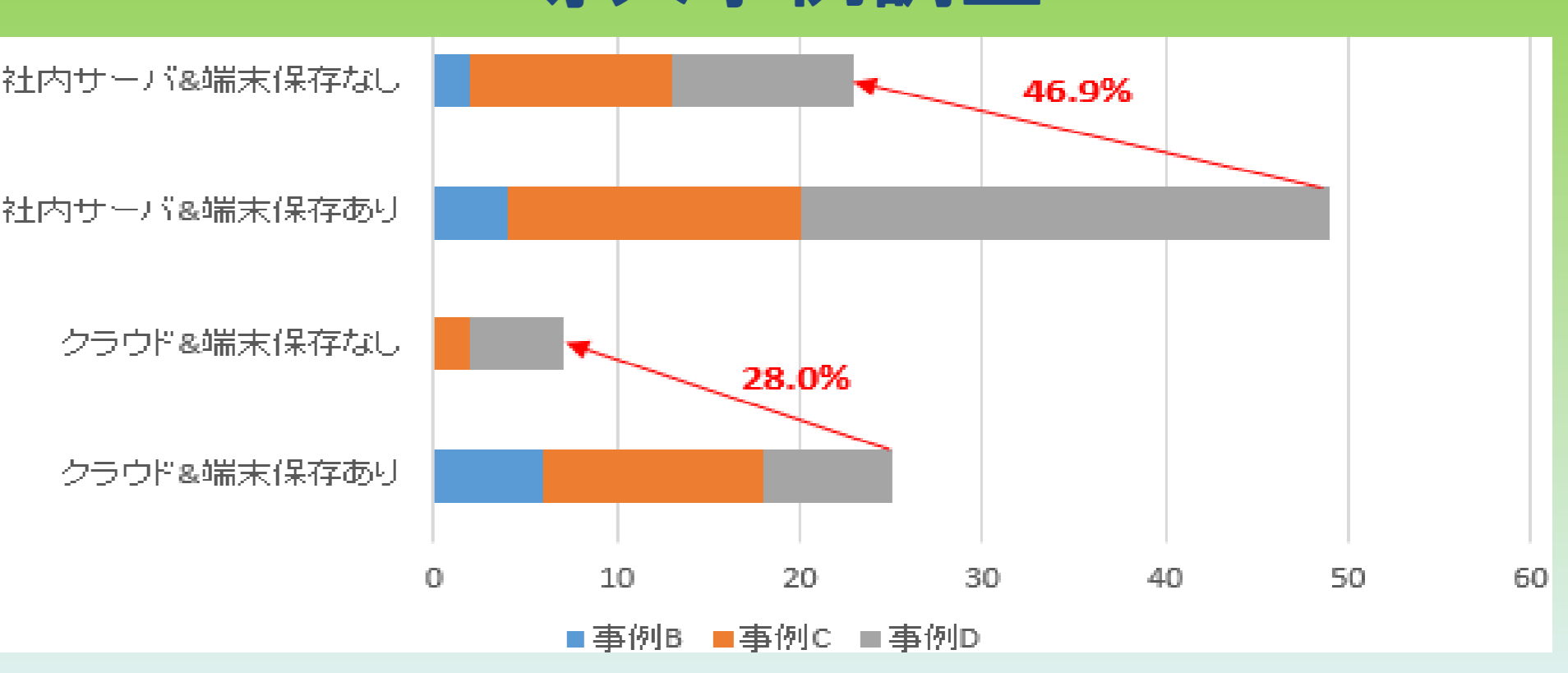
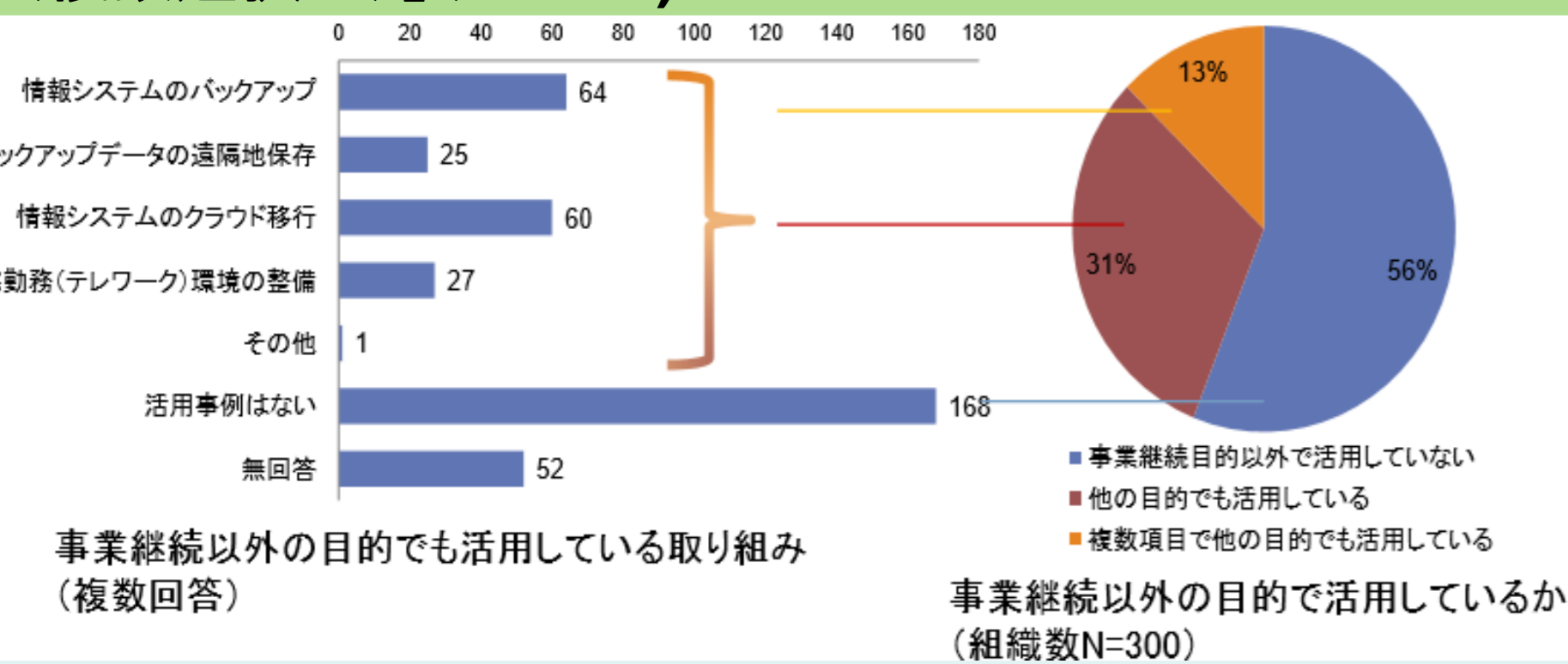


図: データの保存場所とアクセス端末にデータが保存されるかの集計
クラウド利用の場合は、データが端末に保存される率が高い

アンケート調査

[Q37] 事業継続に関わる取組みの中で「事業継続以外の目的」でも活用している事があれば教えてください。(複数選択可) (N=352)



半数以上の組織が複数の目的で活用していない

テレワーク導入モデル

考慮する要件

企業は、事業継続に関心があり**情報漏えいを心配**している。(総務省調査)

事業継続目的のみではなく他の目的でも同時に利用できる事が重要であり、**日常の業務ができるようにする**。(先行研究)(アンケートでは複数目的での活用は半数以下)

テレワークとクラウドは相性が良く、人数が少ない組織で活用されている。(事例調査)

アクセス端末にデータを残さない方が良い。(ガイドライン)(事例調査では、クラウド利用時にアクセス端末にデータが残る割合が高い)

今後の課題

・ **テレワークの運用について**
効果を出し続けるためにPDCAを回す事が重要。

・ **日本型テレワーク(大部屋主義)の実現**

気軽に意思疎通できる環境を作る。
管理職のマネージメント方法の見直し。

・ **企業の戦術ツールとしての活用**

事例調査において、常時テレワークを活用し新事業を始めるなどの事例あり。活用方法の提案など。

各種の導入モデル

